環境浄化を目指した石けん推進活動について

宇和島ブロック漁協女性部協議会
会　長　武　部　　月　美

1　地域の概要

私たちの住む宇和島地域は、愛媛県の西南部に位置し、北は西予市明浜町から西は宇和島市津島町までの地区で、自然風土を生かした農業や水産業が基幹産業となっている。農業は温暖な気候のもと、温州みかんなどのかんきつ類が栽培され代表的な農産物となっており、水産業は沿岸漁業のほか海面養殖漁業が盛んで、真珠、タイ、ハマチなどは全国有数の生産量を誇っている。

2　漁業の概要

宇和島地域は、九州と四国の間にある豊後水道に流れ込む黒潮の恩恵と、また、一部は足摺宇和海国立公園としても指定されたリアス式海岸の見事な景観とその恵まれた自然の中で、真珠やマダイ、ハマチなどの養殖漁業や漁船漁業が行われている。

3　研究グループの組織と運営

宇和島ブロック漁協女性部は、西予市の１漁協（明浜）と宇和島市内の１０漁協（吉田町・宇和島・三浦・遊子・下波・蒋淵・戸島・日振島・北灘・下灘）の女性部で構成され、総部員数は現在、１２４０名あまりとなっている。これら１１漁協の各部長を役員として運営している宇和島ブロック漁協女性部協議会では、年５回から６回の役員会を開き、各部から出た問題点を打開、緩和できるよう活発な話し合いを行っている。

4　研究・実践活動課題選定の動機

宇和島地域の養殖漁業は、長引く景気の低迷と魚価の低迷に大きな打撃を受け、さらに追い討ちをかけるかのように自然環境の悪化、地球温暖化による水温の上昇や赤潮の発生などにより、精魂込めて育てた魚や貝が大量へい死するという大変な事態に見舞われた。そして、生産者の数も、厳しい生活の中で日を増すごとに淘汰されている現状にあり、このままでは漁業を健全な状態で、子供たちに譲れない不安が高まるばかりである。

漁協が真珠貝の品質改良や経営の立て直しに取組む中、私たち女性部の間で「女性に出来ること、女性だから出来ること」を宇和海全体で考えようと意見がまとまった。

私たち女性部は発足以来、それぞれの単協で合成洗剤の追放・せっけん洗剤の推進を強く働きかけてきたが、ここにきて周囲を見回してみると、経済の豊かさや利便性に惑わされ、大切な生活の糧である海を守りきれていなかったことに改めて気づいた。

この現状は、私たち一人ひとりの責任であると考え、すぐに環境保全について、研修を行うことにした。先駆者などのアドバイスもあり、私たちは瀬戸内海で環境浄化に活躍している有用微生物群に大きな期待と関心を寄せることとなった。

5　研究・実践活動状況及び成果

平成１４年８月に　下灘漁協で女性部が主催して同漁協女性部、地元小学生、津島町女性環境委員ら２００人あまりが集まり、石けん普及のためのお魚水槽実験を行った。

予想以上の結果に感動し、活動を後につなげようとアンケート調査を行った。

その後、他の小学校からも依頼があったが、子どもの目の前で生き物を殺す事は避けたいという教育方針により、お魚水槽実験はとりやめとなってしまった。

このため、「合成洗剤は石けんに比べて生き物には危険なもの」という合成洗剤の使用を否定する方針から石けんの安全性を強調する方針へ方向転換することとなり、石けん推進活動にも時代の流れを感じた。

平成１５年度始めのブロック役員会で、漁業関係者以外にも石けんを普及するために、他の団体との交流会をそれぞれの地域の小学校で行うことにした。現在、学校教育では環境をテーマにした学習に力を入れているところが多く、ここに私たちの目指す環境保全のテーマをぶつけることで、未来を担う子供たちに生活の中から環境の大切さを学んで貰い、子供たちを取り巻く大人たちにも間違った生活知識を改め、もっと自然環境や生活環境に関心をもってもらう足掛かりにしたいと考えた。

表１　環境にやさしい健康石けん推進活動の状況（宇和島ブロック漁協女性部）

平成15年8月	・ブロック役員会で、3漁協に対象となる小学校を選定してもらう。
10月	・ブロック役員視察研修旅行。今治大三島の上浦漁協を視察し、当時、上浦小学校で、「総合的な学習の時間」の取り組みの中で、EMを使った環境浄化活動で成果を出していた村上浩一先生（現、今治教育事務所）に研修を受ける。
11月	・研修内容をビデオ編集し、各漁協へ配付した。各漁協で勉強会を行う。
12月	・遊子小学校で米のとぎ汁発酵液と石けんの作り方について、指導を行う。
平成16年1月	・吉田小学校で石けんつくり
2月	・下灘小学校で石けんつくり。松前町で環境リサイクルを指導・実践し、またEM石けん発案者の加藤博徳氏の講演会を開く。
3月	・岩松小学校で石けんつくり
7月	・総会で、加藤博徳氏の「有用微生物を使った環境浄化や生活ゴミのリサイクルについて」の講演をきく。 ・吉田町女性塾で石けんつくり
10月	・ブロック役員の視察と一日研修。松前町中川原地区の地区内分別回収の様子を視察する。 ・北灘漁協女性部を中心に、小学生、漁協職員、講師関係者を招き、研修後有用微生物を入れた土団子つくりを行う。
11月	・ブロック女性部研修大会で、加藤博徳氏を招きEMを使った環境浄化について、200人余りの部員と漁協組合長さんたちが熱心に学んだ。
12月	・津島町女性団体140人ほどで石けんつくり
平成17年2月	・下波と結出小学校で石けんつくり ・北灘小学校で石けんつくり ・三浦小学校で石けんつくり
6月	・岩松小学校で有用微生物を入れた土団子つくり（北灘漁協女性部が指導）
7月	・岩松小学校でヘドロ臭のあるAコープ前の用水路へ土団子を投入する。
9月	・日振島小学校で石けんつくり
10月	・ブロック役員で、弓削・渦浦漁業女性部の店や今治幼稚園、今治小学校の有用微生物を利用した学校生活の様子を視察する。 ・北灘小学校で石けんと土団子つくり（3回目）
11月	・遊子小学校で石けんつくり（2回目）

表２各漁協女性部の活動状況

漁協名	活動日	活動場所
遊子	平成 15 年 12 月 9 日	遊子小学校
吉田町	平成 16 年 1 月 26 日	奥南小学校、吉田高校
下灘	平成 16 年 2 月 26 日	下灘小学校、岩松小学校
三浦	平成 17 年 2 月 24 日	三浦小学校
下波	平成 17 年 2 月 14 日	結出小学校
北灘	平成 17 年 2 月 17 日	北灘小学校、岩松小学校
日振島	平成 17 年 9 月 22 日	日振島小学校
宇和島	平成 17 年度実施予定	
明浜	平成 17 年度実施予定	
戸島	島内に活性液を無料配付し、石けんつくりの指導を行う。	
蒋淵	平成 17 年 11 月 22 日	蒋淵小学校予定

☆環境にやさしい健康廃油せっけんの特徴☆

廃油にお米のとぎ汁発酵液と有用微生物パウダーを入れることにより、環境にやさしいだけでなく、使えば使うほど環境が良くなる。有用微生物が入っていることで、汚れだけでなく悪臭にも効果的で、石けんとしての使用以外に、トイレなどの排水溝に置くことにより、臭いや尿セキを取る効果もある。

☆ 廃油石けんの作り方☆

用意するもの　料理用のはかり　計量カップ　ジョウゴ　スプーン　牛乳の空箱　ペットボトル 500ml　ゴム手袋　軍手　マスク

材料　食用廃油 300g　お米のとぎ汁発酵液 150ml　尿素 15g　ＥＭパウダー15g　オルトケイ酸ナトリウム 75g

作り方　①ペットボトルに下記のものを順に入れる。

- お米のとぎ汁発酵液
- 尿素・ＥＭﾊﾟｳﾀﾞｰ
- オルトケイ酸ナトリウム

完全に溶けるまで、すばやく上下左右に振る。

②廃油を混ぜて、次の要領でシェイクする。

- 30 秒強く振り、30 秒静置する。これを 5～6 回くりかえす。

③牛乳パックに入れ替え、1 週間程放置する。

④適当な大きさにカットし、新聞紙の上で 1 ヶ月以上干すとできあがり。

☆ 環境にやさしい健康石けんの使い方☆

いろいろな使い方が出来ますが、とても溶けやすい性質なので、それを利用すると幅が広がる。

例）

・ペットボトルなどの空き容器に、小さくした石けん入れ水で溶かすと石けん水ができる。

・洗濯物の部分洗い・もみ洗いに使う。

・台所のレンジまわり・レンジフードなど油汚れのひどいところは、スポンジにとって泡立て、やさしく拭くと驚くほどきれいにとれる。あとは石けんカスが残らないように水ぶきなどで拭きとる。

・トイレ、洗面所などの掃除

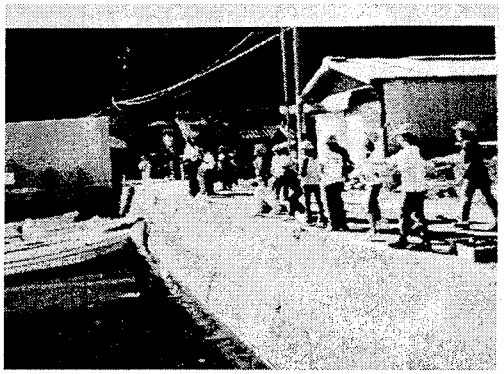
・靴洗い、靴下洗いにも最適。

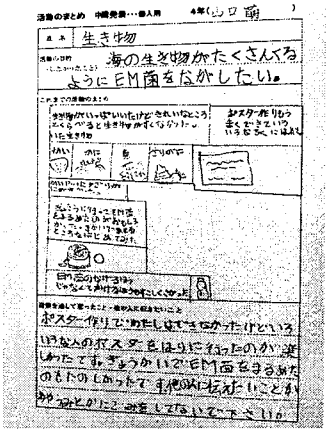
以上の事だけでなく、生活の中でとても万能なので「自分流石けん術」をみつけられると思います。これらの魅力がＥＭ廃油石けんの波及効果につながっているようだ。

【北灘での活動状況】

毎年、夏になると発生する赤潮対策に、ぼかしを使った有用微生物をいれた土団子を使いたいと考え、平成１６年１０月に地元の漁協で研修会を開き、このとき参加した小学４年生が中心となり漁協の近くの汐だまりへ土団子を投入し、経過を観察した。

今年は、２年目を迎え、１０月に新４年生が土団子を投入し観察している。

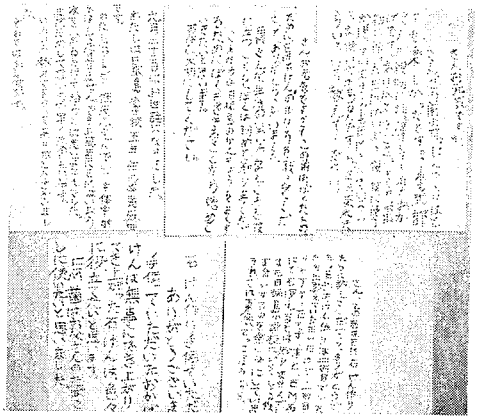




【各小学校の石けんつくりの状況】

子供たちの安全性を考えて、ペットボトルで一人ずつ作るやり方で行っているが、石けんつくりも作業具合に左右されやすく全く同じにはできない事がある。しかし、子どもたちは出来上がったものを、「マイ石けん」と呼んでとても喜んでいる。その様子を見ると、活動を続けることの大切さを子どもに教えられる。大変だが、心地よい充実感に充たされ、この活動をこれからも続けていこうと思った。

これらの活動が私たちブロック役員が交流した学校だけでなく、各漁協女性部の部員さんたちの地域や学校などにも活動の輪が広がっていることに改めて感動している。



6　波及効果

当初、予定では各単協１校で年間３校の小学生を対象に活動を行っていたが、活動を進めるうちに実施した地域からは石けんつくりの講習依頼の声が少しずつ上がるようになってきた。地域の婦人会、女性団体、小グループ、と地域の公民館活動にも静かな広がりをみせている。また、漁協女性部が中心となったことで、今まで宇和島市役所にしかなかった有用微生物培養施設が、吉田、北灘、三浦、戸島、及び日振島漁協に設置され関係者の間では養殖を行う環境を、まず、自分たちの手で守ろうとする意識が高まりつつある。それぞれの地域に有用微生物培養施設ができたことで、地域の人たちに身近で簡単に環境浄化活動を捕えてもらえる準備が整ったことは、大きな成果だといえる。

7　今後の課題や計画と問題点

活動を始めた私たちの生活は、日々切迫している状況にあり、今の状態を少しでもよくしたいという強い思いが、活動のエネルギーになっている。この活動はすぐに結果として現れ、求められるものではない。石けん推進活動のように地道な努力の積み重ねがなければ、私たちが求めている大切な生活の糧である海を守ることはできない。

今後は、みんなの声でできた施設を活発に有効利用して、石けんつくりや活性液の効果的な使い方を合わせて指導し、普及地域も海から川へとさかのぼり環境保全に努めていきたいと考えている。

私たちが、これからもすばらしい宇和海で、美しい真珠や美味しい魚を育て続け本物のブランドになるためには、私たち生産者自身が本物を育てる海を守ることが最重要課題なのである。

私たち女性部は、これからも活動の輪を広げ、一丸となって取り組んでいきたいと強く思っている。